

# 毎日書道展 文科大臣賞

## 仲川恭司名誉教授が受賞

文部科学大臣賞を受賞した。同賞は今年出品された全作品3万3484点(公募部門と役員作品)の中から選ばれる最高賞。受賞作は大字書の魁(かい)。

「師である手島右卿(故人・元専修大学文学部教授)が追究した大字書での受賞は喜びもひとしおです」と語った。仲川名誉教授は、毎年「魁」に興味をもち、活字として使われる以前の字を調べたという。今回の文科大臣賞作品は「今までだれもチャレン

専修大学卒業生のために「送る言葉」を揮毫してきた。本学を34年間勤めた。最近、肩の力が抜けて作風に変化がみられる。と言われているようになった今年3月は、校歌に「世に魁(さきかげ)し」と登場する「魁」を卒業生に贈った。

「魁」に興味をもち、活字として使われる以前の字を調べたという。今回の文科大臣賞作品は「今までだれもチャレン

毎日書道展は応募点数が国内最大規模の公募書道展。伝統の書から最先端の現代書まで7分野9部門が結集する。東京展

（東京都美術館と国立新美術館）が7月31日（日）まで開催中。その後全国9都市を巡回する。

仲川名誉教授は毎日書道会理事、独立書人団理事長を務め、今回の第68回展では実行委員長も担っている。

本展では本学卒業生の活躍も目立った。寺井史明さん(昭54法、島根県益田市)が会員を対象とする会員賞を受賞。井坪大喜さん(平22経済、長野市)は公募と会友が対象の佳作賞に輝き、会員昇格の資格を得た。



国立新美術館で受賞作を前にする仲川教授

念講演会があり、石村修法科大学院教授が、足尾銅毒事件を告発した田中正造との関わりについて講演した。石村教授は今村と田中の2人が納まった写真を示し「今村先生は自由民権運動に積極的に関与した人物であることと忘れてはならない」として、反骨精神を貫徹した今村と田中の生き様を紹介した。

続いて講演したのは『裁判官の爆笑お言葉集』などの著書で知られる田中正造との関わりについて語る石村教授

作家の長嶺超輝さん(1934年)の今村の弁論を紹介した。背任・贈賄の罪で起訴された16人全員が無罪となった事件で、今村は「空中楼閣」という表現で事件がどっちあげだすと主張。「皮肉を交え、パイプの効いた弁論を行った。公判資料の中に人となりが見える」と語った。

記念展では、訴訟記録などで弁護士としての歩み振り返るとともに、戦後、第5代総長に就任してからの大学復興・改革についても展示。労働者のために設置された「労働学院」の入学式の式辞では「人間の最も重んずべき事は正直」と説いている。

法学部を中心に多くの学生が足を運び、長い歴史を持つ専修大学の法学教育について認識を新たにしていった。



年記念講演会 今村力三

代議員会を開催  
校友会

校友会代議員会が6月11日、神田キャンパスで開催され、全国から代議員157人が出席(委任状398人)、意見を交わした。写真。

議事では「平成27年度事業報告・決算報告」「監査報告」「平成28年度事業計画(案)・予算(案)」が満場一致で承認された。

「自分は〜キャラでやっているから…」と云う人がいます。キャラとはキャラクター、性格のこと。この人は、場面や出会う人に応じて、表向きの性格を使い分けているという。場の雰囲気に合わせて、周囲の人から嫌われないために、一所懸命なのだと感じます。

ある程度の使い分けは、誰にでもあつて、友達と話す時と、目上の人と話す時とは、多少態度が違ふものです。しかし、

自分を大切にするために

「自分には〜キャラで周囲に合わせることは、社会生活はできません。でも、あまりにも気にし過ぎて、他者から見た自分ではなから、まぎれもない自分自身はどこにいるのか、わからなくなってしまう人がいます。自分は何を感じ、どんな気持ちでいるのか、見えなくなってしまうのです。

かけがえのない自分を大切にするために、より自分を知るために、心のうちから湧いてくる感じ、気持ちに心を向けてみませんか。そのための方法の一つがカウンセリングなのです。興味のある方は、ぜひ学生相談室へどうぞ。(学生相談室)

### 水難男児を救助

#### 校友・富田さん褒章受章

海で流された子どもを助けたとして校友の富田晃弘さん(平9経営、福岡県古賀市)が今年の春の褒章で紅綬褒章を受章した。学生時代、水球で活躍した富田さんは「当たり前のごときをしようと謙虚に語る。

富田さんは昨年7月18日、自宅に近い古賀市の古賀海岸で家族で海水浴を楽しんでいた。台風が通過したばかりとあって波が高い。そこで別のグループの小学2年生(当時)の男児が離岸流に巻

き込まれ流されてしまった。沖合20〜30分で浮き沈みをしているのを見て富田さんは迷わず海に飛び込んだ。

得意のクロールで男児の元までたどりつき、「大丈夫だ」と声をかけながら海面上に引き上げたものの波が速く岸に戻れない状態だった。別の男性が浮輪を持って向かい、2人で男児を無事救出した。「水難救助の訓練はしたことありませんが、冷静に対処できました」と振り返る。男児



紅綬褒章を受章した富田さん=5月17日、東京都内

消防関係褒章伝達式  
総務省 消防庁

は命に別条はなかった。大学時代は水泳部(水球)に所属。1995年、関東学生水球リーグで376連勝中だった日大を撃破して優勝したチームの一員だ。卒業後も週2〜3回は地元のプロに通い、体を鍛えてきた。

今年5月、都内で紅綬褒章を授与された後、皇居で天皇陛下から激励のお言葉をかけられた。「褒章をいただけるのは思っていなかったので驚きました。陛下からお言葉をいただく感激しました」と語る。

### 石村教授らが講演

#### 元総長・今村力三郎記念展

人権派弁護士として明治から昭和にかけて大事件を手がけ、戦後は卒業生として初めて専修大学総長を務めた今村力三郎(1866-1954年)。生誕150年を記念した展示会が6月11〜23日、神田キャンパスで開催された。18日には記

### 専修人の新しい本

#### プッチョンの丘



はら よう著

韓国ソウルの人気観光地・プッチョン(北村)の韓屋で出会った日本人の一磨と韓国人の美来。2人は運命に導かれるようにひかれあふ。国境を超えた純愛を描く究極のラブストーリー。

物語の終盤、陶芸家であり大学で教鞭を執る一磨と、韓国文化の研究者の美来が中心となり東京で韓国文化展を開催、大成功を収める。2人は互いを思いやる気持ちを深めながら、文化交流を通じて両国の共生や友好を静かに誓うのだった。

著者は本名麻原芳基さん(昭47法)。卒業後コカ・コーラウエスト(現在)に入社。営業畑を歩み、執行役員広島支社長やグループ会社の代表取締役社長を務め、2009年に定年退職した。14年、プッチョンを訪れた際、ふと「日韓の恋愛物語」を思いついた。今までに小説を書いたことはなかったが、帰りの機中から執筆開始。寝食を惜しんで取り組み2カ月半で脱稿。広島の特約出版会社の知人のアドバイスを受け出版社に送ったところ、デビューとなった。友人であるプロ野球解説者の衣笠祥雄さんが「純愛に心が震えた」と帯に推薦文を寄せている。(文芸社・本体1400円十税)

### 代議員会を開催

校友会

校友会代議員会が6月11日、神田キャンパスで開催され、全国から代議員157人が出席(委任状398人)、意見を交わした。写真。

議事では「平成27年度事業報告・決算報告」「監査報告」「平成28年度事業計画(案)・予算(案)」が満場一致で承認された。

### 校友会からのお知らせ

- ▽7月16日(土) 14時〜15時 JR南流山駅から徒歩3分「アモーレ」團岸本國雄氏 ☎090・611・9232
- ▽7月16日(土) 14時〜15時 JR南流山駅から徒歩3分「アモーレ」團岸本國雄氏 ☎090・611・9232
- ▽8月6日(土) 17時〜18時 JR北見駅から徒歩10分「ホテル黒部」團佐藤周一氏 ☎0157・36・3880

### 会計人会総会

▽7月22日(金) 19時10分〜20時 神田キャンパス15階「報恩の間」團吉田伸江氏 ☎03・3579・5200

### アドニス76号刊行

校友会誌「アドニス76号」が7月15日に刊行。馳浩文部科学大臣(昭59文)と石川泉副知事の竹中博康氏(昭48経営)の「特別対談」、堀井学衆議院議員(平6商)が講師となった専修大学新入生ゼミナールの報告「われら専修人」は東京でイタリヤンレストランオーナーシエフとして活躍の渡邊望さん(平7経済)を紹介。

### 募金局からお願い

専修大学は2019年に創立140年を迎えます。また、石巻専修大学も18年に創立30年を迎えます。学校法人専修大学では、さらなる飛躍と発展を期すため「専修大学創立140年・石巻専修大学創立30年記念事業募金」(募集期間5年間)を設け、広く募集を行っております。

併せて熊本地震で被災した専修大学及び石巻専修大学に在籍する学生に対し、奨学金及び生活支援金等として「被災学生支援金」も募集しております。

皆様方の温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お申し込み、お問い合わせは「専修大学募金局」(☎03・3265・3157)へお願い申し上げます。

